

令和4年度 教育委員会の点検・評価報告書



タブレット端末を活用した英語のリスニング



おすすめの本の紹介コーナー
(紹介文の作成を通じた論理的思考力育成)

令和5年8月
四日市市教育委員会

はじめに

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」（以下「地教行法」）に基づき、四日市市教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行っています。また、その結果に関する報告書を作成し、議会に提出するとともに、広く市民に公表しています。

地教行法には、教育委員会が点検・評価を行う際には、学識経験を有する者の知見の活用を図ることが示されており、本市教育委員会でも、四日市市教育施策評価委員を委嘱し、専門的・客観的な立場からの提言・助言をいただきながら、本市の学校教育ビジョンを基盤とした教育施策について、点検及び評価を進めています。

令和3年1月に策定した「第4次四日市市学校教育ビジョン」では、本市の教育大綱の理念を踏まえて、本市の学校教育が目指す子どもの姿を明らかにし、方向性を示しました。本ビジョンは「子どもにつけたい力」と「子どもの学びを支える学校づくり」の2つの観点から、具体的な施策を定めており、5つの基本目標「1. 確かな学力の定着」「2. こころとからだの健全な育成」「3. よりよい未来社会を創造する力の育成」「4. 全ての子どもの能力を伸ばす教育の実現」「5. 学校教育力の向上」を位置付けています。

令和4年度は、重点評価項目として、「基本目標1. 確かな学力の定着」のうち「主体的・対話的で深い学びの実現」及び「基本目標5. 学校教育力の向上」のうち「地域と協働した学校づくり」を設定し、主体的・対話的で深い学びの実現のための授業改善に係る取組の充実を図ること、また、地域の特色を活かした活動や学校関係者評価による教育活動の効果・検証等を行っている四日市版コミュニティスクール運営協議会の充実を図ることをそれぞれ目的とし、市内公立小中学校の視察を行いました。

さらに、第4次四日市市学校教育ビジョンでは、教育を取り巻く状況が急速に進み、社会が加速的に変化していく時代においても、子どもたちが生き抜く力をつけることができるよう様々な施策を横断的に結び付け、施策の重点として取組を推進しています。この施策の重点を継続評価項目とし、「四日市市新教育プログラムの着実な実践」「ICTの効果的な活用（四日市市GIGAスクール構想）」「学校の組織力向上（四日市市の公立学校における働き方改革 ver.2）」について、毎年、継続して取組状況を把握するなど、進捗管理を行っています。

また、施策の具体的な実施状況や達成状況については、視察を通して、教育施策評価委員から客観的かつ専門的な提言・助言をいただくとともに、事務局及び教育委員との協議を重ねることで、教育委員会における活動等の点検・評価を行いました。

これらの評価をもとにして、夢と志を持ち、未来を創るよっかいちの子どもの育成に向けた本市の教育施策が、さらに有効となるよう、また、今後も本市の学校教育がより充実したものとなるよう、取組を進めてまいります。

目 次

1	点検・評価の概要	1
2	教育委員会の活動状況について	2
3	四日市市教育施策評価委員の取組について	5
4	令和4年度の重点評価項目とその評価	6
5	継続評価項目とその評価	11
6	基本目標の達成状況	17
7	教育施策評価委員の提言及び助言（総括）	27

1 点検・評価の概要

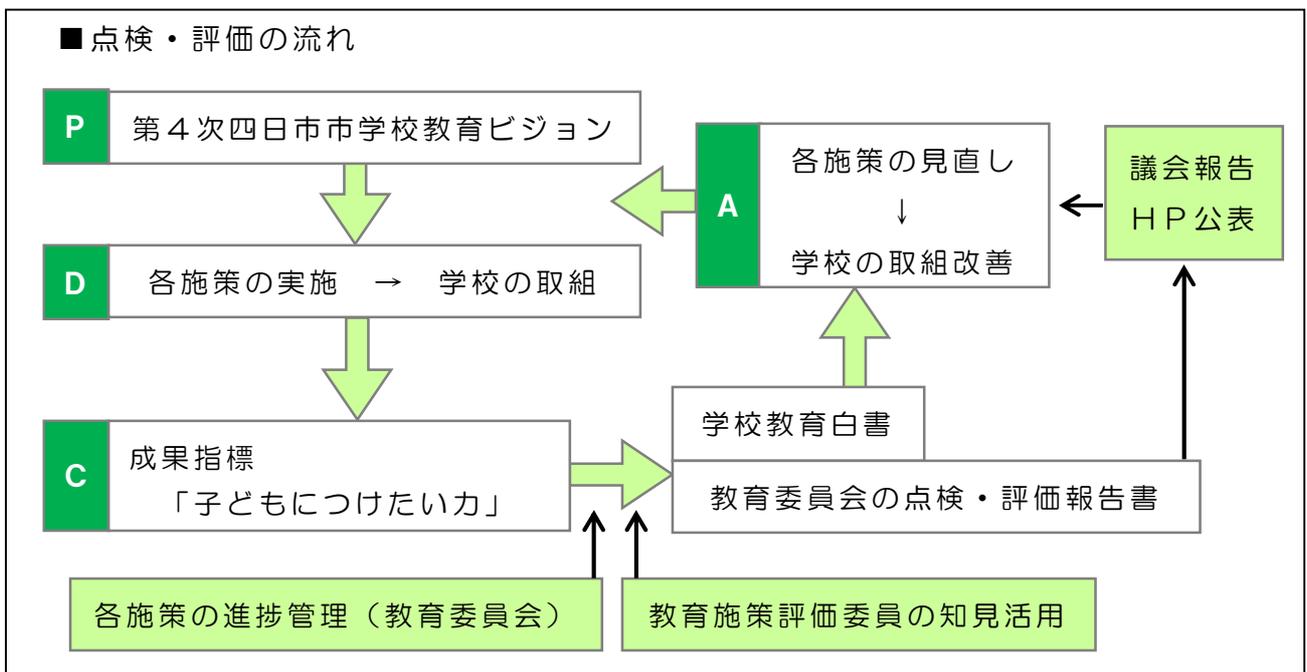
平成 19 年の地教行法の一部改正に伴い、教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成しています。

本市教育委員会では、平成 21 年度から四日市市教育施策評価委員を委嘱し、専門的・客観的な立場からの提言や助言をもとに、学校教育ビジョンを基盤とした教育施策全般について、点検及び評価を進めています。

学校教育ビジョンは、学校教育の根幹として位置付けられるものであることから、成果指標に基づく評価を実施します。全ての基本目標において成果指標に基づき「子どもにつけたい力」「子どもの学びを支える学校づくり」を評価することで、ビジョンの進捗管理を行っています。

教育委員会は、教育施策評価委員からの提言・助言に基づき、施策の目的と効果の検証をするとともに、施策全体の点検・評価を行います。評価の実施にあたっては、年度ごとに、特に重点的に点検・評価すべき項目を協議・選定し、教育施策評価委員による学校視察等や、教育委員会委員との懇談・協議を行ったうえで、施策実施状況を含めた総括を行い、報告書として取りまとめます。報告書は、市議会に報告するとともに、広く市民に周知します。

教育委員会	教育施策評価委員	市議会
10月 重点評価項目選定 11月 各評価項目決定	11～2月 視察・施策評価	
3月 視察概要報告		
5月	執行状況調査（事務局との懇談）	
7月	協議（点検・評価の総括）	
8月 報告書作成・公表		報告書提出



2 教育委員会の活動状況について

(1) 教育委員会会議の開催状況

教育委員会会議は、年間 14 回開催し、議案 34 件、協議事項 7 件、報告事項 27 件、請願 1 件について、審議等を行いました。

開催日	種別	議案、協議事項、報告事項
4月6日	議案 報告	<ul style="list-style-type: none"> 専決処分の報告及び承認について (令和4年4月1日付け市職員の人事異動について) 専決処分の報告及び承認について (教育委員会事務の補助執行に関する規則の一部改正について) 専決処分の報告及び承認について (四日市市立学校文書取扱規程の一部改正について) 専決処分の報告及び承認について (四日市市地区市民センター条例施行規則の一部改正について) 令和3年度市立小中学校における新型コロナウイルス発生状況及びその対応について I C Tを活用した学校教育について
4月20日	議案 報告	<ul style="list-style-type: none"> 四日市市教育支援委員会委員の委嘱又は任命について 令和4年度教育委員会主要課題について I C Tを活用した学校教育について
5月11日	議案 協議	<ul style="list-style-type: none"> 四日市市立博物館協議会委員の任命について 四日市市立図書館協議会委員の任命について 四日市市少年自然の家運営協議会委員の委嘱又は任命について 四日市市社会教育委員の委嘱について 新図書館について
5月18日	議案 協議 報告	<ul style="list-style-type: none"> 四日市市いじめ問題対策連絡協議会委員の委嘱又は任命について 工事請負契約の締結について —高花平小学校改築工事(建築工事)— 工事請負契約の締結について —高花平小学校改築工事(建築電気設備)— 工事請負契約の締結について —高花平小学校改築工事(建築機械設備)— 動産の取得について(教員用タブレット端末一式) 学校の働き方改革を踏まえた学校部活動の地域移行について 令和3年度繰越事業について
7月13日	請願 協議 報告	<ul style="list-style-type: none"> 生徒に強制入部を行わないことの確認を求める請願について 幼児教育センターについて 旧笹川西小学校の校舎解体工事について 令和4年6月定例会の報告について
8月3日	報告	<ul style="list-style-type: none"> 学習用物品の購入、修学旅行業者の契約について 中学校給食事業の進捗について 令和3年度本市におけるいじめ・不登校の状況報告について
8月17日	議案 協議 報告	<ul style="list-style-type: none"> 四日市市英語指導員任用規則の一部改正について 令和4年度の四日市市の20歳(はたち)を祝う会について 委任事務の報告(令和3年度中に教育委員会が行った行政処分について) 令和3年度決算について 令和4年8月定例会補正予算について
10月19日	協議 報告	<ul style="list-style-type: none"> 令和4年度の教育委員会における点検及び評価について 令和4年8月定例会の報告について 三重小学校給食室火災後の対応について

11月2日	議案 協議報告	<ul style="list-style-type: none"> ・四日市市学校給食センター設置条例の制定について ・四日市市立幼稚園条例の一部改正について ・四日市市幼児教育センター条例の制定について ・令和4年度の教育委員会における点検及び評価について ・令和4年度全国学力・学習状況調査結果の分析について ・学校給食費について
11月16日	議案 報告	<ul style="list-style-type: none"> ・四日市市少年自然の家及び四日市市水沢市民広場の指定管理者の指定について ・令和4年11月定例会議会補正予算について ・令和5年度当初予算要求の概要について
1月18日	報告	<ul style="list-style-type: none"> ・令和4年11月定例会議会の報告について ・卒業式、部活動について
1月31日	議案 協議報告	<ul style="list-style-type: none"> ・工事請負契約の締結について一富洲原小学校大規模改修工事一 ・工事請負契約の締結について 一羽津小学校大規模改修工事（2期工事）一 ・工事請負契約の締結について 一三重西小学校大規模改修工事（1期工事）一 ・工事請負契約の締結について 一大矢知興譲小学校大規模改修ほか工事（2期工事）一 ・工事請負契約の締結について 一下野小学校大規模改修工事一 ・工事請負契約の締結について 一常磐中学校大規模改修工事（2期工事）一 ・工事請負契約の締結について一三滝中学校校舎保全改修工事一 ・四日市市立博物館条例の一部改正について ・四日市市楠歴史民俗資料館条例の一部改正について ・四日市市学校規模等適正化事業について ・公立幼稚園の再編と認定こども園整備について ・令和5年度当初予算について ・令和5年2月定例会議会補正予算について
2月22日	議案 報告	<ul style="list-style-type: none"> ・令和5年度教職員の人事異動について ・令和5年度当初予算の補正予算について
3月22日	議案 報告	<ul style="list-style-type: none"> ・四日市市教育委員会の所管に係る四日市市情報公開条例施行規則及び四日市市個人情報保護条例施行規則の一部改正について ・四日市市中学校給食推進室の設置に関する規則の廃止について ・四日市市学校給食センター処務規程の制定について ・四日市市教育委員会事務局処務規則の一部改正について ・令和5年2月定例会議会の経過について ・本市におけるいじめ事案について

(2) 教育委員会会議以外の教育委員の活動状況

①教育懇談会の開催

教育委員会必携（全国市町村教育委員会連合編）では、「教育委員が会議において活発な議論を行い、適切な判断ができるよう、当面する教育行政の課題について理解を深めるための教育委員の研修の一層の改善・充実を図ること」としており、本市においても教育委員の研修の場として、教育懇談会を年間9回開催しました。



開催日	テーマ	会場	出席者
4月27日	本市の子どもの現状と第4次四日市市学校教育ビジョンの今後の展開について	第1研修室	退職校長及び指導主事
5月25日	本市の教育施策における指定校・推進校の視察	泊山小学校 西笹川中学校	

7月6日	本市の教育施策について (教育施策評価委員会)	教育委員会室	施策評価委員
7月20日	本市の教育施策について (教育施策評価委員会)	教育委員会室	施策評価委員
7月27日	市立図書館新設に係る視察	小牧市立中央 図書館	
10月12日	学校の働き方改革に係る取組について	羽津小学校	指導教諭 臨時事務職員 学校業務アシスタント
11月9日	医療的ケアサポーターの現状と今後の支援体制の充実について	富田小学校	指導看護師
1月25日 ※大雪のため、延期	読書活動の充実について (読書活動推進校の取組)	塩浜小学校	
2月9日	四日市市学校給食センター 内覧	四日市市学校 給食センター	給食センター事業者

②総合教育会議への出席

四日市市では、市長と教育委員会が相互の連携を緊密にしながら、地域の実情に応じた教育行政を推進するため、四日市市総合教育会議を開催しています。令和4年度には2回開催され、市長との協議を行いました。

開催会(日)	協議事項
第1回(8月5日)	<ul style="list-style-type: none"> ・新図書館整備に向けた検討・協議について ・幼児教育の充実と施設再編について
第2回(1月20日)	<ul style="list-style-type: none"> ・学校部活動の現状と地域クラブ活動への移行 ・いじめ・不登校対策について

③各種行事、学校訪問等

上記のほか、市主催の行事や教育委員会指定推進校における公開授業研究会、施策評価に係る学校視察などに各委員が出席しました。

開催日	行事、学校訪問等	場所	出席者
6月26日	中部西小学校150周年記念式典	四日市市文化会館	伊藤委員
9月22日	I C T実践推進校公開授業研究会	水沢小学校	伊藤委員
10月4日	I C T実践推進校公開授業研究会	橋北中学校	数馬委員 鈴木委員
	道徳教育指定推進校公開授業研究会	朝明中学校	伊藤委員
11月10日	道徳教育指定推進校公開授業研究会	羽津北小学校	伊藤委員
11月24日	教科担任制研究推進校公開授業研究会	橋北小学校	数馬委員 鈴木委員
11月25日	教科担任制研究推進校公開授業研究会	楠小学校	伊藤委員
1月9日	20歳(はたち)を祝う会	四日市ドーム	豊田委員 伊藤委員 数馬委員 鈴木委員
2月19日	四日市市学校給食センター開所記念式典	四日市市学校給食センター	伊藤委員
3月9日	第2回四日市市教育施策評価委員会 本市教育の施策評価に係る現場視察 (四日市市版コミュニティスクール運営協議会の充実)	四郷小学校	伊藤委員 数馬委員 鈴木委員
4月28日	第3回四日市市教育施策評価委員会 本市教育の施策評価に係る現場視察 (主体的・対話的で深い学びの実現)	中央小学校	伊藤委員 豊田委員 数馬委員 堀委員

3 四日市市教育施策評価委員の取組について

四日市市教育施策評価委員からの専門的・客観的な提言や助言をもとに、点検及び評価を進めています。

(1) 四日市市教育施策評価委員設置目的

- ① 教育委員会が、地教行法の一部改正に伴う、「教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等」を実施するにあたり、教育に関して学識経験を有する者の知見の活用を図る。
- ② 本市の学校評価のシステム全体を検証するとともに、教育委員会が学校に対して行う施策の改善に資する。

(2) 令和4年度四日市市教育施策評価委員

織田 泰幸 (三重大学教育学部教授)
高田 晴美 (四日市大学総合政策学部教授)

(3) 取組の経過

① 第1回教育施策評価委員会 (視察)

【日時】 令和5年1月24日 (火) 9:30～11:00

【場所】 四日市市立三滝中学校

【内容】 主体的・対話的で深い学びの実現

② 第2回教育施策評価委員会 (視察)

【日時】 令和5年3月9日 (木) 13:45～15:00

【場所】 四日市市立四郷小学校

【内容】 地域と協働した学校づくり

～四日市版コミュニティスクール運営協議会の充実～

③ 第3回教育施策評価委員会 (視察)

【日時】 令和5年4月28日 (金) 9:30～11:15

【場所】 四日市市立中央小学校

【内容】 主体的・対話的で深い学びの実現

④ 第4回教育施策評価委員会 (事務局との懇談)

【日時】 令和5年5月26日 (金) 9:30～11:30

【場所】 四日市市役所9階 教育委員会室

【内容】 教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行状況の調査等について

令和4年度評価項目について、その執行状況を調査するために、施策評価委員と事務局との懇談を実施した。

⑤ 第5回教育施策評価委員会 (兼教育懇談会)

【日時】 令和5年7月19日 (水) 9:30～11:30

【場所】 四日市市役所9階 教育委員会室

【内容】 教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行状況についての点検及び評価について

令和4年度教育委員会の点検・評価報告書及び令和4年度版四日市市学校教育白書(通巻第21号)(案)の調整を行った。

4 令和4年度の重点評価項目と評価

令和4年度に選定した重点評価項目と視察の概要及び評価は以下のとおりです。

重点評価項目

- 【基本目標1】 確かな学力の定着（主体的・対話的で深い学びの実現）
- 【基本目標5】 学校教育力の向上（地域と協働した学校づくり）

【基本目標1】 確かな学力の定着（主体的・対話的で深い学びの実現）

（選定理由）

学習指導要領では、これまで積み重ねてきた実践を基に、学習の基盤となる資質・能力（言語能力、情報活用能力、問題発見・問題解決能力等）や現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力の育成について、教科等横断的な視点で組み立てていくこと、教育課程の実施状況を評価してその改善を図っていくこと、教育課程の実施に必要な人的または物的な体制を確保するとともにその改善を図っていくことなど、カリキュラム・マネジメントに努めることが示された。

本市では、令和3年度までに、1人1台学習者用タブレット端末の配備が完了し、各校での取組が進められていること、また、全国学力・学習状況調査の結果分析に基づく取組が進められている。第4次四日市市学校教育ビジョンにおいて、主体的・対話的で深い学びの実現のための授業改善に係る取組について、まずは、授業づくりや組織体制を中心に検証を行い、今後の施策展開につなげる。

（視察概要）

○各教科等における資質・能力を育む授業づくりの推進に係る施策の実施状況について

【視察先】 四日市市立三滝中学校

【視察日時】 令和5年1月24日（火）9:30～11:00

【視察内容】 三滝中学校は、第4次四日市市教育ビジョンの重点施策の1つである四日市市新教育プログラムの着実な実践に基づき、当該校の学校づくりビジョンを策定している。学校づくりビジョンでは、学校教育目標を「人を大切にする」とし、人権・同和教育を基盤に一人ひとりを大切にされた学校教育活動を進めている。とりわけ、確かな学力の定着という観点においては、①学びのサイクルの確立②論理的言語力の育成③英語教育の充実の3つの特色ある取組を実践している。

視察では、1～3年生の授業を参観するとともに、四日市市における学力向上の全市的な取組や新教育プログラム「英語でコミュニケーション IN 四日市！プログラム」での取組など、確かな学力の定着に関連する施策について状況を報告し、その検証を行った。

【評価】

重点評価項目	【基本目標1】 確かな学力の定着（主体的・対話的で深い学びの実現）
評価内容	第4次四日市市学校教育ビジョン重点施策の1つである「新教育プログラムの着実な実践」に伴う施策や学力・学習状況調査結果分析による本市の課題等に合わせた授業改善に係る取組、1人1台学習者用タブレット端末の導入による授業の工夫など、各校への周知や指導・助言を通して確かな学力の定着を図ってきた。 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた取組について、その効果や課題の検証を通して、今後の施策展開の方向性や内容の充実に向けた評価を行う。

<p>施策の概要</p>	<p>○新教育プログラム推進に係る施策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・読解力を育む「20の観点」(柱1) ・論理的思考力育成のための手引(柱2) ・「あすなろう鉄道・三岐鉄道プロジェクト(英語)」(柱3) ・「故郷よっかいちプロジェクト(英語)」(柱3) <p>○四日市市における学力向上の全市的な取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全国学力・学習状況調査結果の分析による取組
<p>目標値と現状値</p>	<p>「全国学力・学習状況調査」における各教科の平均正答率の平均値</p> <p>令和4年度 小学校：100.8(目標値(令和8年度)102)</p> <p>中学校：100.5(目標値(令和8年度)103)</p>
<p>施策評価委員の考察と評価</p>	<p>【主体的な学び、対話的な学び】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループや友達同士など少人数での活動は、うまく取り入れてメリハリをつけることで、授業や勉強を「楽しいもの」と認識させることにはつながり得ると感じた。 ・自分で論理の道筋を試行錯誤しながら作っていくような問題(例えば証明問題など)に対しては、枠組みもない白紙に一から自分で記述していく能力(文字だけでなく記号や図なども使って頭をフル活用して論理的思考をしていく作業)が必要である。 ・社会人として仕事をしていく上では、友達同士ではない場でもコメントをするという能力は持っていた方が有利である。小中学校のうちから、人前でコメントをすることは恥しくない、むしろ恰好いいことである、という雰囲気作りができるといい。 ・分かりやすいということは一方で、自力で考え、工夫する能力を培わない教育にもなりかねない。メモが自分で取れるかどうかということは、主体的な学びをしようとしているかどうかにか直結する。 <p>【タブレット端末を活用した学習】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主体的な学びという視点では、生徒たちが自分で調べたり資料を作ったりと、自ら学ぶというところはよく見えた。しかし、対話的な学びが見えにくかった。 ・タブレット端末の活用は、子どもが自分で考えながら作業をしたり、他者との結果を共有したりすることはスムーズにできるが、教室の中で子ども同士の対話につながるのには難しいのではないかと感じた。「対話」というよりは、数学などの基本問題の確認・練習等、多数のパターンに触れて数をこなすことで定着を図れる学習や遠隔からの「参加」のメリットを強調するものであると感じた。 <p>【新教育プログラム】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新教育プログラムは、具体的な事例も掲載されており、非常によく考えられている。 ・『「令和の日本型学校教育」を担う教師に求められる資質能力』では、これからの時代に求められる教師として、「変化への適応」、「生涯学習者」、「学びの支援者・伴走者」といったモデルが想定されていると思われるが、新教育プログラムでは、教師自身の学びの姿があまり見られないように思われる。 ・子どもたちの学びにする観点は、OECDのラーニングコンパス(学びの羅針盤)において、主体性(エージェンシー)やウェルビーイングという用語とともに記載されているため、そうした新しい動向を盛り込みアップデートする必要がある。 ・柱2について、論理的思考力の向上を意識した授業づくりのための「思考ツール」について、これらのツールを活用する際の原理原則や方法論を学んだ経験のないままに研修において活用している例が見られる。その結果、思考ツールで整理したことが、問題解決に貢献するものとなりにえない場合がある。つまり、子どもたちの論理的思考力を向上させるには、教師たち自身の論理的思考力を向上させるための外部講師を招いた研修が必要になる。 <p style="text-align: center;">↓</p> <p><新教育プログラムを進めていく際のポイント></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校現場にとって活用しやすいプログラムであるかどうか確認と検証が必要になる。 ・プログラムを作成した当初の意図やねらいは、時間の経過とともに薄れていくことがあるため、この意図やねらいを折に触れて確認することが必要である。 ・教育施策のねらいが学校現場に伝わっているか、習熟度別の目的が伝わっているか、子どもたちに伝わっているか、これらの点について確認する必要がある。

【視察先】四日市市立中央小学校

【視察日時】令和5年4月28日（金）9:30～11:15

【視察内容】中央小学校は、第4次四日市市教育ビジョンの重点施策の1つである四日市市新教育プログラムの着実な実践に基づき、当該校の学校づくりビジョンを策定しており、昨年度までは本市の読解力向上推進校として指定され、先進的な授業実践を行ってきた学校である。学校づくりビジョンでは、取り組みの重点として、「確かな学力の定着」「豊かな人間性の育成」などを掲げ、「文章を正確に理解し、相手に適切に伝える子どもの育成」を目指し、言語活動の充実による読解力・表現力の育成に取り組んでいる。また、4月に実施された令和5年度全国学力・学習状況調査実施後には、自校採点を行うとともに、その結果を分析し、授業づくりにつなげている。

視察では、1～6年生の授業を参観するとともに、四日市市における学力向上の全市的な取組や新教育プログラムにおける読解力向上や論理的思考力向上に係る取組など、確かな学力の定着に関連する施策について状況を報告し、その検証を行った。

【評価】

重点評価項目	【基本目標1】確かな学力の定着（主体的・対話的で深い学びの実現）
評価内容	第4次四日市市学校教育ビジョン重点施策の1つである「新教育プログラムの着実な実践」に伴う施策や学力・学習状況調査結果分析による本市の課題等に合わせた授業改善に係る取組、1人1台学習者用タブレット端末の導入による授業の工夫など、各校への周知や指導・助言を通して確かな学力の定着を図ってきた。 確かな学力の定着に関わり、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた取組について、その効果や課題の検証を通して、今後の施策展開の方向性や内容の充実に向けた評価を行う。
施策の概要	○新教育プログラム推進に係る施策 ・読解力を育む「20の観点」（柱1） ・論理的思考力育成のための手引（柱2） ・「あすなろう鉄道・三岐鉄道プロジェクト（英語）」（柱3） ・「故郷よっかいちプロジェクト（英語）」（柱3） ○四日市市における学力向上の全市的な取組 ・全国学力・学習状況調査結果の分析による取組
目標値と現状値	「全国学力・学習状況調査」における各教科の平均正答率の平均値 令和4年度 小学校：100.8（目標値（令和8年度）102） 中学校：100.5（目標値（令和8年度）103）
施策評価委員の考察と評価	【主体的・対話的で深い学び】 ・単に答える、発言するというわけではなく、誰かの発言に対してコメントをする能力も、対話的学びには必要であり、このような工夫も大いに取り入れていくとよいと思われた。 【論理的思考力の育成】 ・国語の授業では文章を論理に正しく読み解くことにフォーカスされていた。論理的思考力について他教科との間でも相互に関係していると実感している。国語で培った力が他の教科へ波及できるよう取り組んでほしい。 ・先生の子どもに対する投げかけ方が思考整理しやすいように工夫され、話すことが苦手な子どもに対しても配慮がなされていた。 ・1つの質問につき、ある児童が答えても、教員はすぐにはそれが正解か否かをコメントせず、他の児童にさらに発言を要求していた。答えに行きつくまでの思考や、答えが複数ありうること、いくらでも深掘りできること、それらが絡み合っている可能性があることにも気づかせるような試みをしていると思われた。

施策評価委員の 考察と評価	<p>【タブレット端末の活用】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・タブレットを使用する学習に関しては、一部、タブレットであるがゆえのやりにくさも見受けられた。書き込んでは消すなどが何度も気軽にできるのはタブレットの優位性ではあるが、一方で、文字を記入する課題をさせている場面では、「うまく字が書けない」「漢字が書きにくい」という児童の声があったことから、紙で行った方がストレスがなくて良さそうに思われた。 <p>【学びの系統性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・6年生の授業を観て先生から与えられた質問に対して自然に学び合う姿にこれまでの学校側の積み重ねを感じた。 <p>【PDCA】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校長先生自身が児童の学力の現状把握に努め、今後の改善策を考えるために、すぐに分析に取り組もうとする姿勢が、未来の学校を創造する一歩になると感じた。
------------------	---

【基本目標 5】 学校教育力の向上（地域と協働した学校づくり）

（選定理由）

本市では、四日市版コミュニティスクールにおいて、地域とともにある学校づくりを推進している。令和3年度には、全校を四日市版コミュニティスクールに指定し、地域の特色を活かした活動や学校関係者評価による教育活動の効果・検証等を行っている。

今後は、さらに地域とともにある学校運営が求められてくることから、四日市版コミュニティスクールの取組内容の充実を図るとともに、保護者・地域住民とともに学校運営の改善や教育活動の充実に努めることができるよう、視察や懇談を通して、四日市版コミュニティスクールの現状を把握するとともに、これからの方向性について検討を行う必要がある。

（視察概要）

○ 本市における地域と協働した学校づくりに係る施策の実施状況について

【視 察 先】 四日市市立四郷小学校

【視察日時】 令和5年3月9日（木） 13:45～15:00

【視察内容】 四郷小学校は、平成22年度に四日市版コミュニティスクール運営協議会に指定しており、子どもの健全な育ちを確保するために、学校と家庭、地域が一体となった取組を進めている。令和2年度には、ふるさと「四郷」を誇れる子どもの育成・「人」「伝統」「自然」をキーワードに、「歴史や文化を知る」「人々とふれあい、生きざまを見つめる」「災害や事故から自分の命を守る」の3つの体験学習を実施するなど、この10年間の活動が認められ、令和2年度「地域学校協働活動」推進に係る文部科学大臣表彰を受賞した。

視察では、四日市版コミュニティスクールにおける取組の報告や今後の方向性について担当課より提案するとともに、四郷小学校コミュニティスクール「くろがねもち協議会」の組織体制や役割、学校運営に関わる取組などを報告し、その検証を行った。

【評価】

重点評価項目	【基本目標 5】学校教育力の向上（地域と協働した学校づくり）
評価内容	<p>四日市版コミュニティスクールは、平成22年度から順次、指定の拡大を図り、令和3年度には市立全小中学校の指定を完了した。</p> <p>地域人材の学校支援への参画や保護者、地域住民とともに学校運営の改善や教育活動の充実など、四日市版コミュニティスクールの現状について確認するとともに、その効果や課題について検証を通して、地域と協働した学校づくりを進めるための今後の施策展開の方向性や内容の充実に向けた評価を行う。</p>
施策の概要	<p>○四日市版コミュニティスクール運営協議会の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・委員研修の実施（7月委員研修会、12月委員長研修会） ・コミュニティスクール運営協議会への指導・助言 <p>○地域人材を活用した四日市版コミュニティスクールの活動の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習支援（学習ボランティア、体験活動、職場体験学習など） ・教育支援（放課後や長期休業中の補充学習、図書ボランティアなど） ・学校支援（登下校見守り活動、地域と連携した防災活動、地域行事参加など）
目標値と現状値	<p>地域人材を活用した取組や出前講座（生活リズムや万引き防止、eネット出前講座等）がカリキュラムに位置づいている学校の割合</p> <p>令和4年度 100%（目標値（令和8年度）100%）</p>
施策評価委員の考察と評価	<p>【意義や効果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日頃から、家族や教師以外の、つまりは地域の大人たちとの接する機会が多くあることで、社会性を身に着ける、気の置けない大人との対応ができるようになるという意味でも、地域の方が学校と関わるのは有益である。 ・廊下に、登校時の地域の交通見守り委員の方々の写真が掲示されていた。子どもにとって、安心できるという効果があるとともに、常に地域の方々が子どもたちのことを見守っている、気にかけてくれている、ということを実感できる効果もあるように思われた。 ・コミュニティスクールの活動をするうえで、子どもたちから「ありがとう」と言ってもらえることが喜びであるとのことについて、このような思いが今の運営協議会のメンバーの方から、保護者の世代の方に伝わっていくとよい。 <p>【組織体制づくり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・もともと地域の活動が基盤となり、その組織がコミュニティスクールとして確立したことにより、活動への参加がしやすくなったことや保護者との情報共有がしやすくなったことが効果としてあがっていることから、組織を確立するうえでは重要なことであると考えられる。 ・コミュニティスクールに関わる人々の業務が決して増えることのないよう、無理のないやり方、持続可能なやり方で続けていく仕組みづくりを模索する必要がある。 <p>【学びの場としての役割】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・四日市市のすべての学校が四郷小学校と同じやり方をすることは難しいかもしれないが、小学校は、学校教育で最も地域密着がやりやすい場で、地元のことを、資料や現物などに直接あたりながら学べる利点は大きい。 ・調べること、見ること、読むこと、考えること、思いをはせることなど、学び方を学ぶという意味でも、コミュニティスクールにおいて、地域実情に応じた活動を充実させていってほしい。 ・子どもを育てるのは地域の仕事であるという話から、コミュニティスクールが中心となり、例えば小学校が幼稚園や中学校の子どもたちとともに活動するなど、就学前から中学校までが連携した活動を取り入れることも1つの役割だと考える。

5 継続評価項目と評価

教育を取り巻く状況の急速な変化に伴い、本市においてもその変化に合わせながら施策を展開しています。そのため、教育委員会において継続して進捗を確かめるための点検・評価を行う必要がある項目をとして、第4次四日市市学校教育ビジョンにおいて様々な施策を横断的に結びつけ中心的な役割を果たす「施策の重点」について評価を行います。

＜施策の重点1＞四日市市新教育プログラムの着実な実践

（柱1）読む・話す・伝えるプログラム

<p>取組状況 実績・成果</p>	<p>(1)「読解力を育む20の観点」のワークシートの作成・配付</p> <ul style="list-style-type: none"> ・R2：小学校高学年対象に配付 ・R4：中学校対象に配付（全教科対応）推進校で問題を作成協力 ・R4：小学校中学年対象に作成 <p>(2)読解力向上推進校（小学校1校、中学校1校） 文章を正確に理解し、適切に表現する資質・能力の育成の研究</p> <p>(3)「スピーチコンテスト THE BENRON」を3年ぶりに対面で実施（R4） 市内全体に還流させるため四日市学習ポータルサイト「こにゅうどうくん学びの部屋」で動画公開</p> <p>▷全国学力・学習状況調査：国語（全国100として） 【小】R1：98.9→R4：100.0 【中】R1：100.0→R4：99.9</p>
<p>分析・評価等</p>	<p>○小学校では、朝の学習、授業中、家庭学習等でワークシートを活用し、読解力の向上につながった。</p> <p>○推進校の実践から、国語科に限らず他教科でも「読解力を育む20の観点」を意識した授業改善につながるといった成果が得られた。</p> <p>○「スピーチコンテスト THE BENRON」は、中学生が表現する場として、非常に有効な場となっている。</p>

（柱2）論理的な思考で道筋くっきりプログラム

<p>取組状況 実績・成果</p>	<p>(1)教科横断的な思考スキル等の活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・思考スキル、思考ツール、表現モデルを活用した授業づくり ・「論理的思考力向上のための手引き」の作成、配付 <p>(2)論理的思考力向上推進校（小学校1校、中学校1校） 論理的思考力向上を目指した実践的・効果的な授業づくり等の研究</p> <p>(3)オンライン学習支援教材「学んでE-net！」に、本市独自で記述問題ワークシートを掲載</p> <p>(4)プログラミング教育</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校で発達段階に応じたプログラミング教育を実施 ・プログラミング教育を実施するための研修会を実施 <p>▷全国学力・学習状況調査：算数・数学（全国100として） 【小】R1：100.0→R4：100.5 【中】R1：101.0→R4：102.1</p>
<p>分析・評価等</p>	<p>○推進校の実践から、「問題を解くときに、絵や図表式などを活用している」と肯定的回答している割合が全学年で上昇した。</p> <p>○「学んでE-net！」を補充学習や家庭学習等において活用したり、生徒が自主的に学習したりしている。</p> <p>○児童生徒一人一台タブレットの配備により、様々な教科と関連させながらプログラミング学習が行えるようになっている。</p>

(柱3) 英語でコミュニケーション IN 四日市！プログラム

<p>実績・成果 取組状況</p>	<p>(1)小学校英語専科教員の配置 (2)全小中学校へネイティブの英語指導員の配置 英語キャンプ、パフォーマンステスト、イングリッシュ LAB 等を実施 (3)英検 IBA を中学校全学年で実施 (4)小中学校連携した英語学習をとおして「故郷よっかいち」を英語で紹介できる力の育成 ・あすなろう鉄道・三岐鉄道英語アナウンス ・四日市・ロングビーチ交流プログラム ▷「英語を使って友達と会話することは楽しい」と肯定的な回答をした児童の割合 小学5・6年生 R1 82.0%→R3 83.7%</p>
<p>分析・評価等</p>	<p>○第3期教育振興基本計画では「中学校卒業段階で英検3級等以上 50%以上」を目指している。令和4年度の英検 IBA（3級以上レベル）の本市生徒の割合（中学3年生）は、50.7%となっている。 ○英検 IBA の中学1年生のリスニングの正答率が他分野と比べて高い。英語専科教員配置等により小学校で聞く・話す活動を多く経験していることが成果の要因と考えられる。</p>

(柱4) 運動大好き！走・跳・投UP プログラム

<p>実績・成果 取組状況</p>	<p>(1)四日市市運動能力・体力向上推進委員会で検討 ・体力・運動能力の現状、課題把握 ※全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果分析冊子発行 ※保護者向けリーフレット発行 ・体力向上、授業改善に係る取組の検討・発信 等 R2:【小】「新5分間運動スタートブック」等作成 R3:【中】「Warmup+新5分間運動スタートブック」等作成 R4:【小】「新5分間運動からはじめる授業づくりガイドブック」作成 (2)小学校体育担当者研修会を年3回実施 ▷「運動やスポーツをすることが好き」と肯定的回答をした児童生徒の割合 【小】男子 R1 92.8→R3 89.6→R4 91.0% 女子 R1 89.6→R3 83.4→R4 83.8% 【中】男子 R1 89.9→R3 88.6→R4 89.9% 女子 R1 80.1→R3 74.8→R4 78.4%</p>
<p>分析・評価等</p>	<p>○小中学校ともに新5分間運動が定着してきている。 ○全国と同様、小中学校男女ともに、体力は低下傾向にあるが、小学校は全国との差が縮まっている。 ○「運動やスポーツをすることが好き」と肯定的回答をした児童生徒の割合は、令和3年度より改善傾向がみられる。 ○運動特性に触れ、達成感や成就感が感じられる授業づくり、日常的に運動したくなる環境づくりが進んでいる。</p>

(柱5) 夢と志! よっかいち・輝く自分づくりプログラム

<p>実績・成果 取組状況</p>	<p>(1)四日市版キャリア・パスポートの作成・配付 ・R2: 小6・中学生に配付 ・R3: 全小中学生に配付 (R4以降、毎年小1・中1に配付)</p> <p>(2)キャリア・パスポート推進校(小学校1校、中学校1校) ・キャリア・パスポートの効果的な活用に係る実践研究・検証 ・推進校の取組リーフレットを作成・配付</p> <p>(3)プレ社会人セミナー・職場体験の実施(中学校) ゲストティーチャーによる出前授業及び職業に関わる様々な事業所等での職場体験活動 (原則3日間実施)</p> <p>(4)各中学校区において子ども人権フォーラムを実施</p> <p>(5)全小中学校において、メディア・リテラシーと人権についての出前授業を実施 ▷「将来の夢や目標を持っている」と肯定的な回答をした児童生徒の割合 【小】R1 82.0%→R4 77.3% 【中】R1 70.0%→R4 70.5%</p>
<p>分析・評価等</p>	<p>○キャリア・パスポートを学年・学校間で引き継ぐことにより、子どもの育ちを把握して指導できるようになった。</p> <p>○同じ中学校区内で推進校を指定し、小中学校でめざす子どもの姿を共有し、発達段階に応じたキャリア教育に取り組んだ。</p> <p>○子ども人権フォーラムや出前授業を通して、児童生徒が身近な人権問題を話し合い、その解決に向けた実践行動力の育成につなげることができた。</p> <p>○令和4年度キャリア教育優良教育委員会、学校及びPTA団体等文部科学表彰受賞6校目</p>

(柱6) 四日市ならではの地域資源活用プログラム

<p>実績・成果 取組状況</p>	<p>(1)四日市公害と環境未来館の見学 ・小学校5年生、中学校3年生で実施 ・R4: 中学校では、四日市公害と環境未来館が作成したオリジナル動画や学習資料を活用し、代替学習を実施</p> <p>(2)市内教職員対象にESD・SDGsの研修会を実施</p> <p>(3)小学校社会科副読本「のびゆく四日市」のデジタル教材を作成 四日市学習ポータルサイト「こにゅうどうくん学びの部屋」にデジタル教材を掲載</p> <p>(4)企業連携授業やJAXAと宇宙に関する教育活動を実施 ▷「地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがある」と肯定的な回答をした児童生徒の割合 【小】R1 55.7%→R4 50.7% 【中】R1 42.0%→R4 43.4%</p>
<p>分析・評価等</p>	<p>○公害の事実、市の取組や当時の人々の思いを知り、ふるさと四日市を大切に思い、自分たちにできることを考えることができた。</p> <p>○ESD・SDGsの研修会に参加した教員は、SDGsを学ぶ意義や目的を体感することができた。</p> <p>○ふるさと四日市を知り、誇りと愛着を持ち、社会とつながる協働的な学びを実現することができた。</p> <p>○令和4年度コミュニティスクールと地域学校協働活動の一体的推進に係る文部科学表彰受賞6校目</p>

＜施策の重点2＞ICTの効果的な活用（四日市市GIGAスクール構想）

【環境整備】

<p>実績・成果 取組状況</p>	<p>(1) 学習用アプリの導入 学習用タブレット端末で個別学習アプリ（ベネッセ社ドリルパーク）を導入し、朝の学習や家庭学習等で活用</p> <p>(2) 学校保護者連絡システム導入 校務支援システム（EDUCOM社C4th）と連携した学校保護者連絡システム（EDUCOM社Home&School）を使用した学校と保護者の双方向連絡システムの導入による連絡手段のデジタル化</p> <p>(3) ネットワークの増強 各学校からインターネットへの接続回線を10Gbpsに増強し、クラウドの利用やオンライン教材へのアクセス、家庭との接続を高速化</p> <p>(4) 教員用タブレット端末の配備 小中学校の授業等における事前準備や教材研究</p>
<p>分析・評価等</p>	<p>○個別学習アプリの導入により、朝・帰りの帯時間や授業の振り返り等を利用し基礎学力の定着や、急な出席停止や学年・学級閉鎖時の学びの保障が充実した。</p> <p>○学校保護者連絡システムの導入により、欠席連絡がオンライン化され、保護者・教員の双方の負担軽減につながった。また、学校からの情報伝達や発信のデジタル化により印刷物が減少した。</p> <p>○インターネット接続回線の高速化により、複数学級が同時にクラウドやインターネット上の教材等にアクセスしても、フリーズしたり画面表示が極端に遅くなったりすることがなくなった。</p> <p>○教員用タブレットが1人1台となることにより、指導用タブレットが教員に固定化され、職員室に持ち帰っての教材研究や準備が可能となった。これにより、授業準備に時間をかけることができるようになり、より効果的な活用が可能となった。</p>

【教職員研修】

<p>実績・成果 取組状況</p>	<p>(1) 指導主事等による指導・助言 ICT機器の活用や主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業づくりに関する指導・助言（全小学校各2回訪問）</p> <p>(2) 出前研修等 ICT機器を活用した授業づくりに係る各校での研修講座（年11回実施）</p> <p>(3) ICT活用実践推進校公開授業の実施（令和4年度推進校：橋北中学校、西朝明中学校、大矢知興譲小学校、水沢小学校、河原田小学校） 各小中学校から推進校いずれかの公開授業に最低1名参加</p>
<p>分析・評価等</p>	<p>○教育支援課が年度末に全教員対象に調査している「ICT活用実態調査」によると「ICTをよく活用している」「日常的に活用している」と回答した教員の割合が向上した。 R3 77% → R4 82%</p>

＜施策の重点3＞学校の組織力向上（四日市市の公立学校における働き方改革 ver.2）

【環境整備（制度設計など）】

実績・成果 取組状況	<p>(1)学校保護者連絡統合システム（R4～） 学校と家庭の両者の負担軽減のため、学校だよりや欠席連絡など、学校と家庭間の連絡手段をデジタル化</p> <p>(2)教員用1人1台タブレット端末（R4～） 授業で使用するタブレット端末による事前準備や教材研究の効率化</p> <p>(3)給食費公会計化（小学校：R4～ 中学校：R5～） 給食費徴収に係る教職員の業務負担軽減</p> <p>(4)高性能コピー機の導入（R3～全校設置） 印刷業務に係る時間短縮</p> <p>(5)オートメッセージ付き電話（R1.8～） 教職員の勤務時間外における電話対応の負担軽減</p> <p>(6)校務支援システムの導入（H31～） 出席簿、成績処理、指導要録作成等のデジタル化と児童生徒情報の一元管理</p> <p>(7)週2日の部活動休養日の設定（中学校のみ）（H30～） 部活動ガイドラインによる生徒及び教職員の健康面を配慮し、休養日を設定</p> <p>(8)学校閉校日（夏/冬）の設定 長期休業中における学校の対応軽減を目的とした閉校日の設定</p> <p>(9)高学年一部教科担任制（R2～） 新教育プログラムの実現、「学びの一体化」の推進を目的とし、小学校高学年における教科担任制に対応するための実践的研究を実施</p> <p>(10)定時退校日の設定</p> <p>(11)学校外の会議や研修のオンライン化</p> <p>(12)学校行事の見直し</p> <p>▷超過勤務年720時間以上の教職員の割合 【小】R1 10.8%→R4 3.3% 【中】R1 33.3%→R4 15.2%</p>
分析・評価等	<p>○教職員間や学校・保護者等間における情報共有や連絡調整に係わる手段のデジタル化や、ICTを活用した校務効率化により、教職員や保護者の負担軽減につながっている。運用開始からまだ数年であるため、今後、更に活用が進めば、教師の負担軽減や勤務時間削減への効果が期待される。</p> <p>○新型コロナウイルス感染症対策下において、学校行事の教育的観点を踏まえつつ、その実施方法の適切な変更・工夫を行ってきた。これが一つの契機となり、学校行事の精選や内容・準備の見直しが進んでいる。今後も、児童生徒や学校、地域の実態に応じて、学校行事をより効果的・効率的に実施し、準備・運営に際しての家庭・地域との連携・協力、学校業務アシスタント等の活用を推進する。</p>

【環境整備（人材の活用）】

<p>実績・成果 取組状況</p>	<p>(1)学校業務アシスタント（市）の配置（H31～） (2)スクールサポートスタッフ（県）の配置（R2.9～） データ入力や印刷業務、書類整理、環境整備など、学校や教員が必ずしも担う必要のない業務を行う。 ▶業務負担軽減に効果があった取組のうち回答割合の高いもの（教職員アンケート調査より） 学校教務アシスタント 96% 給食費公会計化 88% 高性能コピー機 85%</p>
<p>分析・評価等</p>	<p>○学校・教師が担ってきた業務の役割分担・適正化に係わる取組の1つ。 印刷や調査・統計の回答等、学校の業務だが必ずしも教師が担う必要のない業務を任せることができ、教職員の業務負担軽減に大きな効果をもたらしている。</p>

【部活動地域移行】

<p>実績・成果 取組状況</p>	<p>(1)部活動指導員/協力員の配置 休日部活動を持続可能な活動とするための地域人材を中心とした人材確保 令和4年度21名を指導員として市立中学校に配置 (2)総合型地域スポーツクラブとの連携 休日部活動について、総合型地域スポーツクラブが担えるよう体制を整備 令和4年度 1クラブ（楠スポーツクラブ） (3)拠点型活動 各競技団体と連携し、拠点型の活動を行うことができるよう体制整備のための調査・研究を実施</p>
<p>分析・評価等</p>	<p>○総合型地域スポーツクラブ「楠スポーツクラブ」と楠中学校の連携については、休日の練習を中心に全ての運動部（軟式野球、サッカー、陸上、卓球、バレーボール、ソフトテニス）、文化部活動（美術創作）において、「楠スポーツクラブ」の指導員が行った。指導員単独での指導が可能であるため、教員については、平日は他の業務に従事することができた。また、土日の練習は指導員に任せてきたことで、教員は休養することができた。 ○部活動指導員については、市内中学校の21部活に指導員を任用し、土日の休日を中心に専門的な技術指導を行った。総合型地域スポーツクラブの指導員同様、単独での指導が可能なたため、教員の働き方改革につながった。 ○総合型地域スポーツクラブによる指導も部活動指導員による指導も学校の教員との間で、生徒の情報や練習のメニューなど、綿密なコミュニケーションを図りながら進めることができている。 ○地域指導者による部活動指導により、教員の部活動指導に関する業務負担の軽減は一定の成果がみられるものの、全ての部活動において、地域指導者が行えるだけの環境は整っていないため、市の関係部局や各種協会、団体と共に、環境整備に取り組む。</p>

6 基本目標の達成状況

※ 基準値については、新型コロナウイルス感染症感染拡大等の影響もあり、第4次四日市市学校教育ビジョン策定時の令和元年度または令和2年度の数値を用いています。

基本目標1 確かな学力の定着

子どもたちがこれからの複雑で変化の激しい時代を生き抜くためには、知識や技能の定着とともに、思考力、判断力、表現力をバランスよく育成することや言語能力、問題解決能力、情報活用能力など汎用的な資質・能力を育成する必要があります。

いかに社会が変化しようとも、自ら課題を見つけ、考え、主体的に判断・行動し、よりよく問題を解決できるよう、ICTを効果的に活用しながら、個に応じた指導や対話的な学びをこれまで以上に進め、確かな学力の定着を図ります。

※基本目標1-1、1-3、1-4…全国平均値を100としたときの全科目の市平均値

【指標】

①「全国学力・学習状況調査」における各教科の平均正答率の平均値	基準値	R4	R5	R6	R7	R8	目標値
	小学校 98.8 中学校 102.5	小学校 100.8 中学校 100.5					小学校 102 中学校 103
自己評価	令和4年度は、小学校100.8%、中学校100.5%であり、全国の正答率よりも上回っている。その要因として、四日市モデルを基盤とした授業改善が浸透し、授業の中で「つきたい力」を意識した授業づくりを行ってきたことが考えられる。						

②ほぼ毎日、コンピュータなどのICT機器を他の友達と意見を交換したり、調べたりするために使用している児童生徒の割合	基準値	R4	R5	R6	R7	R8	目標値
	5.7% (参考値)	調べる場面 13.1% 意見交換場面 6.5%					95%
自己評価	教育支援課による出前研修や校長への学校訪問支援等により、週3日以上調べる場面に端末を活用した児童生徒の割合は40.5%、意見交換に活用した児童生徒の割合は22.7%と増加したが、ほぼ毎日となると若干の増加にとどまった。						

※令和4年度全国学力・学習状況調査の学校質問紙では、設問の内容が調べる場面と意見を交換する場面にわかれたため、別々の数値を達成状況とした。

指標	基準値	R4	R5	R6	R7	R8	目標値
③「全国学力・学習状況調査」における読解力に関連する問題の平均値	小学校 100.7 中学校 101.1	小学校 98.6 中学校 100.1					小学校 102 中学校 103
自己評価	基準値と比較し、小学校は2.1%、中学校は1.0%減少している。しかし、R3年度の数値と比較すると小学校中学校ともに上昇傾向にあるため、取組の効果が徐々にみられてきている。						

指標	基準値	R4	R5	R6	R7	R8	目標値
④「全国学力・学習状況調査」における思考力に関連する問題の平均値	小学校 95.3 中学校 104.3	小学校 99.0 中学校 103.6					小学校 101 中学校 105
自己評価	基準値と比較し、小学校は3.7%増加し、中学校は0.7%減少している。しかし、中学校は全国と比較すると、依然として上回っている。小学校、中学校ともに取り組みの効果がみられている。						

指標	基準値	R4	R5	R6	R7	R8	目標値
⑤-1「英語を使って友だちと会話することは楽しい」と肯定的な回答をした小学5・6年生の割合	82%	84%					90%
自己評価	HEFの派遣でネイティブスピーカーの英語に触れる機会が増えたことで、英語を使って会話することが楽しいと感じる児童が2%増えた。						

指標	基準値	R4	R5	R6	R7	R8	目標値
⑤-2 CEFR A1レベル（英検3級）相当以上を取得している及び相当の英語力を有すると思われる中学3年生の割合	44.3%	47.0%					55%
自己評価	言語活動の充実により、授業の中で自分の考えや思いを表現する場面が増えたことで、英語でのコミュニケーション力の素地が身に付いてきていると考えられる。						

指標	基準値	R4	R5	R6	R7	R8	目標値
⑥「主体的な遊びを通しての学び」について研修を行い、教育課程に反映させた園の割合	—	69%					100%
自己評価	計画・実践・評価のサイクルを確立させた研修の積み上げと、三重大学連携など外部講師の助言を通して、年3回以上の研修を行いかつ研修で得たことを教育課程に反映させることで、研修効果の向上につながった。						

基本目標2

こころとからだの健全な育成

子どもたちが生涯を通じて心身ともに充実した生活を送るためには、自己肯定感や粘り強く最後までやり遂げようとする強い気持ち、他者を思いやり協働する心とともに、生きる基盤となる健康・体力を兼ね備える必要があります。

集団的・協働的な学びの中で、人権意識の向上と行動力の育成、考え議論する道徳教育を通して、よりよく生きるための豊かな人間性を育みます。また、生涯にわたり運動好きの子どもを育てるとともに、基本的な生活習慣と規範意識の修得を図ります。

【指標】

	基準値	R4	R5	R6	R7	R8	目標値
①いじめや差別は絶対にいけないと思う子どもの割合	93%	94%					95%
自己評価	目標値を達成できていないが、いじめや差別は絶対にいけないと思う子どもは高い割合を占めている。学校人権教育の充実を図り、自他の人権を大切に する意識と行動力を備えた子どもの育成に努めていく。						

	基準値	R4	R5	R6	R7	R8	目標値
②「道徳の授業で、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいる」と肯定的な回答をした児童生徒の割合	小学校 79.8% 中学校 81.3%	小学校 77.4% 中学校 89.1%					小学校 85% 中学校 86%
自己評価	肯定的回答の割合が中学校では増加している。道徳教育推進校の取り組みを、全小中学校の道徳教育推進教師に研修会で紹介したことで、「考え、議論する道徳」の推進につながった。小学校では肯定的な回答の割合が減少している。学級やグループでの話し合う活動に制限があったことが、要因として考えられる。						

指標	基準値	R4	R5	R6	R7	R8	目標値
③「授業時間以外に読書をする」と回答した児童生徒の割合	小学校 81.8% 中学校 66.8%	小学校 70.2% 中学校 63.3%					小学校 85% 中学校 70%
自己評価	肯定的に回答した児童生徒の割合が、小学校、中学校ともに減少している。学校図書館の貸出機会等の制限により、子どもたちの本との出会いの場が少なかったことが原因と考えられる。						

指標	基準値	R4	R5	R6	R7	R8	目標値
④「運動（体を動かす運動遊びを含む）やスポーツをすることが好きである」と肯定的な回答をした児童生徒の割合	(小)男子 71.3% (小)女子 52.0% (中)男子 63.5% (中)女子 44.3%	小学校 87.4% 中学校 84.2%					小学校 94% 中学校 88%
自己評価	肯定的に回答する児童、生徒が増えた。その要因として新5分間運動スタートブック等の指導資料を作成し、新5分間運動の理解を深めたり、体育指導の基礎基本について見直したりする研修を通して、指導者の意識改革、授業改善を進めてきたことが考えられる。						

指標	基準値	R4	R5	R6	R7	R8	目標値
⑤学校三師や関係機関と連携し、専門的な知見を活かした学校保健委員会や保健教育、研修会等を2回以上開催した学校数	8校 (小2 中6) 13.6%	59校 (小37 中22) 100%					30校 (小19 中11) 50.8%
自己評価	取組指標を達成していた学校数は59校（小37、中22）で、目標値を達成した。学校保健委員会の開催の他、学校薬剤師による「医薬品の正しい使い方教室（薬物乱用防止教室を含む）」や、全中学校において産婦人科医や助産師による「生命及び性に関する出前講座」を開催した。						

指標	基準値	R4	R5	R6	R7	R8	目標値
⑥食育に「関心がある」と回答した児童生徒の割合	—	小学校 81.1% 中学校 66.7%					100%
自己評価	小学校では、毎日の学校給食が食育指導と直結していることから、食に関する学習への興味や関心が、中学校よりも高くなっていると考えられる。						

基本目標3

よりよい未来社会を創造する力の育成

子どもたちが夢や志を持ち、その実現に向けて行動に移していくためには、主体的に自ら学ぶ意欲と、他者との人間関係を形成するためのコミュニケーション能力を育成する必要があります。

地域に愛着と誇りを持ち、持続可能で暮らしやすい未来社会を担う自立した人間に成長できるように、四日市ならではの地域資源を効果的に生かし、日々の学校生活全体をキャリア教育の視点で捉えながら、社会のつながりを意識した教育活動を進めます。

【指標】

①「将来の夢や目標を持っている」と肯定的な回答をした児童生徒の割合	基準値	R4	R5	R6	R7	R8	目標値
	小学校 82.0% 中学校 70.0%	小学校 77.3% 中学校 70.5%					小学校 85% 中学校 75%
自己評価	小学校では肯定的な回答をした児童の割合は減少しているが、発達段階に応じた組織的・系統的なキャリア教育の推進、一人一人のキャリア形成を目指した教育活動の充実を図っており、小中学校ともにその成果は一定程度表れている。						

②-1 見学をとおして、ふるさとへの愛着をもつことができた児童生徒の割合	基準値	R4	R5	R6	R7	R8	目標値
	小学校 85% 中学校 80%	100%*					小学校 95% 中学校 90%
自己評価	久留倍官衙遺跡公園やくるべ古代歴史館を活用した遠足や社会見学、出前講座を実施した学校に対しアンケート調査を行った。利用した17校のうち8校から、見学を通して、地域の歴史について興味や関心を深めたり理解を深めたりすることができたと回答を受けた。						

※見学をとおして、地域の歴史について興味や関心を深めたり理解を深めたりすることができたと回答した学校

指標	基準値	R4	R5	R6	R7	R8	目標値
②-2 見学をとおして、星や宇宙に対して興味・関心を示すことができた児童生徒の割合	小学校 85% 中学校 80%	—					小学校 95% 中学校 90%
自己評価	学習放映の利用校は、工事による休館や市内中学校が代替学習になったことなどの影響により、28校から18校に減少した。また、移動天文車きらら号の派遣及び天文教室の利用校は、2校から8校に増加した。(利用の制限があったため、R4については数値なし)						

指標	基準値	R4	R5	R6	R7	R8	目標値
③-1 「地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがある」と肯定的な回答をした児童生徒の割合	小学校 55.7% 中学校 42%	小学校 50.7% 中学校 43.4%					小学校 60% 中学校 70%
自己評価	肯定的な回答をした児童生徒の割合は、小学校は 5.0%減少し、中学校は 1.4%増加している。地域行事等の制限があったことにより、子どもたちが地域の行事に参加できなかったことが要因と考えられる。						

指標	基準値	R4	R5	R6	R7	R8	目標値
③-2 「地球環境を守るための行動をしたいと感じるようになった」と肯定的な回答をした児童生徒の割合	小学校 85% 中学校 80%	—					小学校 95% 中学校 90%
自己評価	「そらんぼ四日市」が工事で休館のため、全中学校 22 校の見学を中止し、オリジナル動画や学習資料を配付するなどの代替学習を実施した。(利用の制限があったため、R4については数値なし)						

指標	基準値	R4	R5	R6	R7	R8	目標値
④「学校教育活動、学校経営の評価」における、「日常生活に生きる安全教育の充実」の質問項目での評価の平均値	小学校 3.5 中学校 3.1	小学校 3.4 中学校 3.3					小学校 3.8 中学校 3.5
自己評価	各校において、学校安全計画や防災教育計画に基づき、安全や防災への知識や実践力を高めるよう指導を行ってきた。警察や関係機関と連携し、交通安全教室や防犯教室に取り組んだ。また、地域の「見守り隊」と連携し、通学路の危険箇所の確認や登下校指導を行った。今後は、さらに体験的な活動や ICT 機器を活用した安全教育活動を推進していく。						

基本目標4

全ての子ども能力を伸ばす教育の実現

少子高齢化に伴う地域社会の変容、人間関係の希薄化、家庭環境の多様化など、コロナ禍も相まって、子どもを取り巻く環境の変化に拍車がかかっています。

学校教育が「ひとづくり」の場であればこそ、誰一人取り残すことのない学びの保障に向けて、子ども一人一人が、それぞれのニーズに応じた学習の機会を得られるよう、全ての子ども能力を伸ばす教育の実現を目指します。

【指標】

①-1「国語の授業の内容はよく分かる」と肯定的な回答をした児童生徒の割合	基準値	R4	R5	R6	R7	R8	目標値
	小学校 86.1%	小学校 84.9%					小学校 85%
	中学校 82.5%	中学校 83.8%					中学校 75%
自己評価	小学校は 1.2%減少し、中学校は 1.3%増加した。授業において指導方法や学習環境などの制限があり、協働的な授業が進まなかったことが一因であるが、中学校においてはICTの活用により増加したものと考えられる。						

①-2「算数・数学の授業の内容はよく分かる」と肯定的な回答をした児童生徒の割合	基準値	R4	R5	R6	R7	R8	目標値
	小学校 84.6%	小学校 79.7%					小学校 90%
	中学校 80.7%	中学校 79.5%					中学校 85%
自己評価	小学校は 4.9%、中学校は 1.2%減少した。授業において指導方法や学習環境などの制限があり、自ら問いを解決できるような学習が進まなかったことが一因であると考えられる。						

指標	基準値	R4	R5	R6	R7	R8	目標値
②相談支援ファイルを作成している児童生徒の割合	7.7%	8.9%					8.3%
自己評価	特別支援学級在籍児童生徒数及び通級による指導を受ける児童生徒数の増加と、特別支援教育 Co 研修動画で相談支援ファイル活用の内容を充実させたことにより、関係職員への周知・理解が進み、支援が必要な児童生徒に対して作成増につながった。						

※学習指導要領により特別支援学級在籍児童生徒及び通級による指導を受ける児童生徒は相談支援ファイル（個別の教育支援計画・個別の指導計画）を作成することになっている。

指標	基準値	R4	R5	R6	R7	R8	目標値
③JSL対話型アセスメントDLA（四日市版）を活用して日本語指導等を行った学校の割合	—	23.9%					100%
自己評価	外国人児童生徒が在籍している小中学校において、JSL対話型アセスメントDLA（四日市版）の活用がまだ十分に浸透していない現状がある。外国人児童生徒の日本語能力を把握し、適切な指導を行うことが課題である。						

指標	基準値	R4	R5	R6	R7	R8	目標値
④ 中学3年生不登校生徒の卒業後進路（進学・就職）決定率	97%	91%					100%
自己評価	進路決定に結び付かなかったケースは、当該生徒自身やその家庭の状況など、中学卒業のタイミングでの進路決定が困難な状況にある児童生徒が多かった。今後も引き続き、中学校在学中から計画的に進路指導を行ったり、関係機関につなげたりする体制づくりを促進し、不登校生徒の社会的自立につなげる取組を進めていく。						

指標	基準値	R4	R5	R6	R7	R8	目標値
⑤ 学校基本調査における中学校卒業後の高等学校等進学率	98.9%	98.8%					99.5%
自己評価	進学を希望する生徒が、環境の違いに関わらず希望通りに進学することができるよう、受けられる制度や支援について、さらに周知を行っていく必要がある。						

基本目標5

学校教育力の向上

子どもたちが安全・安心な学校生活を送り、意欲的な学びを継続することのできる教育環境をつくるためには、組織的かつ計画的な教育活動に取り組むなど、よりよい学校教育をめざすカリキュラム・マネジメントを踏まえた学校運営を進めることが重要です。

学校と家庭・地域・関係機関・専門家が連携し、「チーム学校」としての組織力を強化することで、学校教育力の向上を図ります。

【指標】

	基準値	R4	R5	R6	R7	R8	目標値
①「学校評価」における「学校経営の充実」に係る質問項目の平均値	小学校 3.3 中学校 3.2	小学校 3.3 中学校 3.2					小学校 3.4 中学校 3.3
自己評価	学校経営の充実に係る質問項目の平均値は、基準値と同程度に留まってはいるものの、コロナ禍を経て、学習者の理解と対応や危機管理、学校情報の発信等が充実するとともに、ICT機器の整備により職員間において児童生徒情報の共有がスムーズになるなど、学校経営の充実が努められた。						

	基準値	R4	R5	R6	R7	R8	目標値
②超過勤務年720時間以上の教職員数の割合	小学校 10.8% 中学校 33.3%	小学校 3.3% 中学校 15.2%					小学校 0% 中学校 0%
自己評価	小中学校ともに超過勤務年720時間以上の教職員の割合は減少しており、特に小学校では目標値に近づいている。平成30年度以降、「学校業務サポート事業」として学校業務の適正化に関する取組を進めてきた成果が表れていると考えられる。						

指標	基準値	R4	R5	R6	R7	R8	目標値
③「学校に行くのは、楽しいと思う」と肯定的な回答をした児童生徒の割合	小6 85.0% 中3 84.0%	小6 84.1% 中3 85.3%					小6 90% 中3 90%
自己評価	全国平均値と比較すると小学校は1.3%減、中学校は1.4%増であった。困りごとを相談できる教師や大人がいると答えている児童生徒の数も全国平均値を下回っていることから、学校生活から安心感を得られるよう、相談できる環境作りに努めなければならない。						

指標	基準値	R4	R5	R6	R7	R8	目標値
④新教育プログラム6つの柱を意識した一貫性・連続性のある指導をした中学校区数	—	21校区					21校区※
自己評価	令和4年度には、全ての中学校区において、新教育プログラムを意識した取り組みを進めることができた。今後も、新教育プログラムを踏まえ、発達段階に応じた取組を充実させるとともに、幼稚園・保育園・認定こども園・小学校・中学校がより一層の連携を図り、教職員がつながりを意識した取組を進めることで、一貫性・連続性のある指導を実現できるよう努めていく。						

※三滝中、三重平中は同一中学校区として取組を進めているため

指標	基準値	R4	R5	R6	R7	R8	目標値
⑤地域人材を活用した取組や出前講座（生活リズムや万引き防止、eネット安心講座等）がカリキュラムに位置づいている学校の割合	—	地域人材活用 100% 出前講座 44%					100%
自己評価	平成18年度にモデル校を3校指定して以来、毎年指定校を拡大し、令和3年度をもって市内全小中学校を指定し、取り組みを進めている。今後も、「特色ある学校づくり」の実現に向け、地域協力者の活用を支援していく。青少年育成室の出前講座を活用している小中学校は令和4年では26校であった。複数の講座を受講している学校もあれば全く活用されていない学校もあり、今後より多くの学校で活用されるよう働きかけをすすめていく。						

指標	基準値	R4	R5	R6	R7	R8	目標値
⑥教職員が、校内外の研修や研究会に参加し、その成果を教育活動に積極的に反映させている学校の割合	42%	56%					100%
自己評価	多様化したニーズに合わせた講師の選定や、放課後を利用したオンライン研修の開設などにより、より教育活動に反映しやすくなったといえる。今後も継続して研修内容や形態を見直し、より教育活動に生かせるもの実践できる研修体制を構築していく。						

※令和4年度全国学力・学習状況調査の学校質問紙の設問から本項目が無くなったため、教育支援課が毎年度独自に小中学校教職員対象に調査している研修活用調査の設問「受講した講座内容を教育活動に活用しましたか」の回答において、肯定的な回答をした教職員の割合が100%の学校の割合を達成状況とした。

指標	基準値	R4	R5	R6	R7	R8	目標値
⑦学校施設整備計画に基づく施設整備の実施率※	小学校 2% 中学校 7%	小学校 22% 中学校 14%					小学校 74% 中学校 48%
自己評価	高花平小学校の改築工事に着手すると共に、内部小学校、常磐西小学校、常磐中学校、羽津小学校、川島小学校、笹川小学校、大矢知興譲小学校の大規模改修工事など計画していた整備を実施し、良好な学習環境の確保と施設の長寿命化を図った。						

※令和2年度からの総合計画にあわせ、令和11年度に100%の目標達成とする整備計画

7 教育施策評価委員の提言及び助言（総括）

織田 泰幸 委員（三重大学教育学部教授）

① 「探究」の重要性

四日市市の新教育プログラムは、これからの社会を生きる子どもたちに求められる資質・能力については詳細かつ網羅的に提示されていますが、教師自身に求められる資質・能力についてはあまり提示されていないように思いました。では、これからの学校の教師にはどのような資質・能力が求められるのでしょうか。

『令和の日本型学校教育の構築を目指して』（答申）では、「学校教育を取り巻く環境の変化を前向きに受け止め、教職生涯を通じて学び続け、子供一人一人の学びを最大限に引き出し、主体的な学びを支援する伴走者としての役割を果たしている」と明記されています。この答申から読み取ることのできるこれからの教師像は、変化に適応すること、「生涯学習者」となること、そして「学びの支援者・伴走者」となることであると思います。

「生涯学習者」としての教師像と関わって参考になるのは、ユネスコの 21 世紀教育国際委員会報告書『学習：秘められた宝』（1997 年）です。この報告書では、生涯を通じた教育における学習の 4 つの柱として、1. Learning to know (知ることを学ぶ)、 2. Learning to do (なすことを学ぶ)、 3. Learning to live together, Learning to live with others (他者と協力し、ともに生きることを学ぶ)、 4. Learning to be (人として生きることを学ぶ) が挙げられていました。これらは教師に求められる「生涯学習者」としての姿と重なりますが、「令和の日本型学校教育」では、これらに加えて、「学び方を学ぶ」(learning how to learn)こと、さらには「探究の仕方を学ぶ」(learning how to inquiry)ことが大切になるのではないのでしょうか。

とりわけ「探究」と関わっては、教師と子どもたちの双方が、授業において探究する「問い」を立てる能力を高めることが重要になります。世の中には答えが簡単に見つかる「問い」と答えが簡単に見つからない「問い」があります。前者はネットで検索すればすぐに答えが見つかる性質のものです。後者は自分一人では答えにたどり着くことが難しく、そもそも答えがない場合もあります。そのため、他者と協力して「問い」について「探究」を積み重ねる経験が重要になると思います。

② 優れた実践事例に学ぶこと

校内研修の一環としての授業研究は、どの学校でもおこなわれていると思いますが、県内外の優れた教育実践に学ぶ機会はどれほど確保されているのでしょうか。学校改善と関わっては、教師の意識改革や学校文化の変革の重要性が叫ばれることがあります。ここで注意したいのは、「認識や意識が変われば行動が変わる」のではなく、実際には「行動することによって認識が変化すること」です。最初に認識や文化を変えるのではなく、最初に行動（行為する方法）を変えることのほうが必要になります。そのためには、校内研修だけでなく、県内外の優れた実践から学ぶ機会を保证する必要があると考えます。

③ 「働き方改革」について

「教師の働き方改革」と関わって、勤務時間の削減については少しずつ実現されています。しかし、教師の本来の仕事である授業の準備や子どもと関わる時間を確保するためには、行政文書の送付（例：アンケートや報告の実施の依頼）を可能な限り削減する必要があると考えます。多くの調査や研究が、こうした文書作成のために教師本来の仕事に向き合う時間が奪われている現状を告発しています。学校の先生たちが「教えることと学ぶことの喜び(joy of teaching and learning)」を感じることができるような施策の実現をぜひともお願いします。

高田 晴美 委員（四日市大学総合政策学部教授）

①令和4年度の重点評価項目について

【基本目標1：確かな学力の定着（主体的・対話的で深い学びの実現）】

表面的に「対話的」な学習をすれば「主体的」とは限らないが、受け身にならずに生徒が自分の頭で考えることを促すには、教員や他の生徒からの問いかけ・意見を受け取り、それにコメントする（発言できなくてもノートに自分のコメントをメモする）といった営みが有効だ。視察において、特に小学校ではこれを意識した授業がなされていた。ただし、グループワークでは少人数の友達同士という私的な雰囲気がハードルを低くするのか、多くの生徒が発言するが、教室全体での教師による問いかけには、発言は限られた生徒になりがち。クラス全体といった公的な場では物怖じしてしまうのだろう。中学校では、グループワーク以外での生徒たちの発言は、小学校よりも減じているように見受けられた。こうやって日本人は次第に公的な場（ただし発表会などの発言がお膳立てされた場ではなく、発言するかは自由意思による場）では発言しない人の方が多数派となっていく過程が窺われるような気がした。大学でも、ゼミでは学生どうしの議論が重要となるが、指名せずとも自ら発言できる学生は限られている。小学校での全員ではないものの活発に発言し合う雰囲気を、何とか中学校やその後へも発展させていけないか。これは社会人になっても、会議等でのコメント力として必要だ。

また、タブレットを日常的に授業で活用することが進んでおり、ゲーム的要素も入ったツールとして楽しめている様子も窺われた。ただし中には、これはむしろ紙の方が有効と思われる使い方もあった。タブレットと紙、それぞれの長所・短所をふまえた上での有効活用が望まれる。また、タブレットやワークシート等のガイドを使わずに一からノートにまとめていく能力も、将来、主体的な仕事をする上でのメモ取りに必要な能力である。ワークシートのガイドや理想的な板書などを有効活用してノートの取り方を学ばせた上で、まっさらなノートにガイドなしにノートをとる能力にまでつなげていく取り組みが必要であることを日々、実感している。

【基本目標5：学校教育力の向上（地域と協働した学校づくり）】

四日市版コミュニティスクールについては、学校ごとにうまくいっている点、問題点が異なっているのだろう。比較的うまく進められている小学校ですら、担い手は高齢者が多いので、生徒の親たちのような若い世代も関わって欲しいという声を聞いた。時間的・体力的・精神的に余裕がない共働き世帯が大部分の現代においては難しかろう。ここはある程度割り切って、日々の活動は、地域で余裕がある方々中心で行っていく、人材を増やしたいなら、生徒の親世代に無理を強いるのではなく、元気も余裕もあるがこれまでそういう地域活動に積極的ではなかった高齢者を新たに発掘し、むしろ高齢者に活動の場を提供する方に注力をしてほしいのかもしれない。

②継続評価項目について

重点1については、「読解力を育む20の観点」を意識した授業づくりが、特に小学校の国語の授業においてうまく機能しているように見受けられた。発達段階に応じて系統的に、中学校の特に評論文の読解・解釈を細密に行わせることに力を入れていただきたい。これにはむしろ、タブレット端末よりも紙の方が適しているのではないだろうか。文章にどっぷりと付き合い、取り組んだ思考の痕跡を残すには、紙が最適であると、文学研究を専門とする私には思われる。

視察した中学校においては、読み書きだけでなく話す・聞くの日常的な英語の教育にも熱心に取り組んでおり、グループワークもあって英語が楽しいという生徒の声もあって、楽しい学びをしている様子が窺われた。今後も使える英語力養成、ひいてはコミュニケーション力向上につながる活動に邁進していただきたい。

教員が工夫した授業づくりを創造するためにも、教員には創造的な仕事（作業的な仕事ではなく）をするための、細切れではなくまとまった時間が取れるよう、仕事の時間配分にも配慮していただきたい。私も日々実感しているが、授業のアイデア出し等は、細切れの時間では難しいものである。

<参 考>

○地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抜粋）
（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第4項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。